

木曾川町連区防災教室（HUG）開催模様

東日本大震災から、6年が経過した3月11日、木曾川庁舎2階の研修室Cで、防災教室（HUG）を実施しました。

『HUGとは、Hinanjyo Unei Gameの頭文字をとったHUGです。』

参加は、区長はじめ地域づくり協議会の役員、部会員が参加しての教室で、地域づくり協議会会長から「過去の災害教訓を忘れずに」のあいさつのあと、一宮市危機管理室から「行政の災害時体制と普段から災害に備えた準備方法（家具転倒防止・食料確保など）」などを聞き、ゲームへの運びとなりました。

ゲームは、防災ボランティアの指導のもと、避難所（学校）に避難してくる人の家族構成（性別、年齢など）・病気の有無・介護の要・ペットの持ち込み・車での避難などいろいろな条件を聞き、



また避難所での滞在期間の長短などを勘案し、避難所の何処にどの家族を。また、今後まだ避難者が予想される場合の空間や救援物資・資器材を何処に確保するか等を、机上で行いました。



さらに、たまたまの観光客が避難者となった場合・報道関係の人・応援で駆け付けたボランティア団体など、あらゆる場面を想定しなければならない必要性も学びました。

避難所が、学校ということから、使用禁止の場所（教室）も事前に知っておく必要があることなど、問題の多岐・複雑さを痛感しました。

短時間ではありましたが、最後の方は頭がパニック状態でした。

最後に、木曾川町連区長から「諸災害に対しての普段からの備え、その必要性を！」強く訴えられ、有意義な教室であったと感じました。

なお、防災ボランティアの人は、どれが正解か？は被害の状況や避難者の条件が不確定な状況のなか、一概に「これ」とは言い難いとのことでした。



家に帰ってゆっくり考えると、避難所を通勤電車に例えると避難者の位置を決める参考になることが多いな～と気が付きました。

例えば目的地が遠い人は、出入口より離れてゆったりとした空間を確保する。

すぐ降りる人は、出入口付近に陣取る傾向にあることなど。

また、車両にはシルバー・身障者や妊婦さんなどの優先のシートがあることや、女性専用車両があることなど、避難所運営のヒントが多いと思いました。

